

1 血液内科研修プログラムの概要

1. プログラムの目的と特徴

- ・ 主要な血液疾患（造血器腫瘍、造血障害、出血性素因など）を的確に診断し、EBMに基づいた治療を実践できる知識、技能、臨床能力を身に付ける。
- ・ 造血幹細胞移植、分子標的療法などの先進医療の適応を的確に判断し、実践できる臨床能力を身に付ける。
- ・ 多施設共同研究に参加し、共同研究のありかたを学ぶとともに、血液疾患の治療進歩に貢献する。
- ・ 血液関連学会及び研究会に積極的に参加し、学会発表および誌上発表を行う。
- ・ 臨床研究テーマを決め、3年間系統的に取り組み、論文にまとめる。
- ・ 日本血液学会認定医にふさわしい血液内科医としての資質を養う。

2. 研修内容と到達目標

1年目

- ・ 病棟担当医として、主要血液疾患患者の診療（診察、診断、治療、患者教育など）にあたる。
- ・ EBMに基づいた標準的治療が確実に実践できる臨床能力を身に付ける。
- ・ 自己末梢血幹細胞移植の適応の決定と実践が的確にできるようにする。
- ・ 外来診療の検査・処置の実施により外来診療の学習の場とする。

2年目

- ・ 病棟担当医であるとともに指導医として病棟診療にあたる。
- ・ 再発難治例、特殊な病態、高齢者、重篤な合併症を有する症例などの診療に必要な臨床応用能力を身に付ける。
- ・ 同種ミニ移植を指導医とともに実践し、適応の決定とGVHDのコントロールを学習する。

3年目

- ・ 病棟担当医であるとともに2年目レジデント以下の指導医として病棟診療にあたる。
- ・ 同種ミニ移植を的確に実践できる臨床能力を身に付ける。
- ・ 血液内科外来診療を開始し、他科からのコンサルテーションも担当する。
- ・ 血液内科の一員として、主要血液疾患の治療方針決定に責任をもつ。
- ・ 臨床研究テーマを論文としてまとめる。